

日本福祉教育・ボランティア学習学会 学会ニュース

No. 49

Japan Academic Association of Socio-education and Service Learning

発行人:上野谷加代子 発行日:2012年11月5日

編集委員:池田幸也 渡邊昌行 熊谷紀良

〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町3番27号 ロリエ市ヶ谷3階

TEL 03-5227-7101 FAX 03-5227-7102

学会 HP: <http://www.jaass.ne.jp/> / メール: jaasesl@mbp.nifty.com

第18回 日本福祉教育・ボランティア学習学会

いばらき大会への「いざない」

大会テーマ <福祉教育・ボランティア学習のちから>

まもなく、第18回いばらき大会が水戸市の常磐大学で開催されます。昨年3月11日の東日本大震災では茨城県も地震や津波で被災しました。津波の被害は太平洋岸の北海道、東北地方から関東の千葉県などに至る広範囲に及びました。震災直後の被災地での助け合い、支え合いはライフラインが途絶された各地で必要不可欠となりました。また、茨城からも東北の被災地へ直接的支援や後方支援が展開されました。この経過をふりかえると、これまで福祉教育・ボランティア学習が地域や学校で培ってきた成果がみられた一方、不十分であったいくつもの現実に気づきます。

今回の大会では、今年の京都大会におけるボランタリズムの思想を踏まえ、震災からの示唆を検証するとともに、福祉教育・ボランティア学習のあり方を問い直す契機にしたいと思います。

そこで、第1日目の基調報告では、いばらきにおける大震災の被災地から被災地への支援をふりかえり、福祉教育・ボランティア学習のこれまでを再考します。続いての<対談>は、東京ボランティア市民活動センターの山崎美貴子氏と法政大学の仁平典宏氏にお願いしています。世代と時代を超え、戦後の日本におけるボランティア活動の系譜を手繰りつつ、ボランティアのこれまでとこれからを未来に向けて語っていただきます。午後は学会の課題別研究に加え、いばらき発の特別課題研究1では、震災直後から継続的に取り組まれている「震災ボランティアバス」の意義と成果について、ボランティアバスの担い手と参加者を交え、今後の在り方を議論します。いばらき発の特別課題研究2では、福島県から避難者と被災地支援に取り組んできた静岡のNPOのメンバー、被災地支援のコーディネーターの三者で今後に向けた議論を展開します。

第2日目は、午前の7つの「自由研究発表」と<実践研究論文のワークショップ>に続き、午後は「**福祉教育・ボランティア学習**」の原理とこれから」と題して学会シンポジウムを開催します。市民社会をめざす教育については広田照幸氏から、福祉教育・ボランティア学習のこれまでの成果とこれからの意や課題については原田正樹氏から、震災支援や地域社会のありかたについては米澤智秀氏から提起していただきます。上野谷加代子氏のコーディネートで、福祉教育・ボランティア学習の原理を問う研究の在り方や実践をより意義あるものとするための方策や条件をみいだしていきます。

いばらき大会の「いざない」に乗ると、大会後は「いざ、NOW!」と動き出す力を得るはずです。

ご参加をお待ちしています。

第18回いばらき大会実行委員長 池田幸也 (常磐大学)